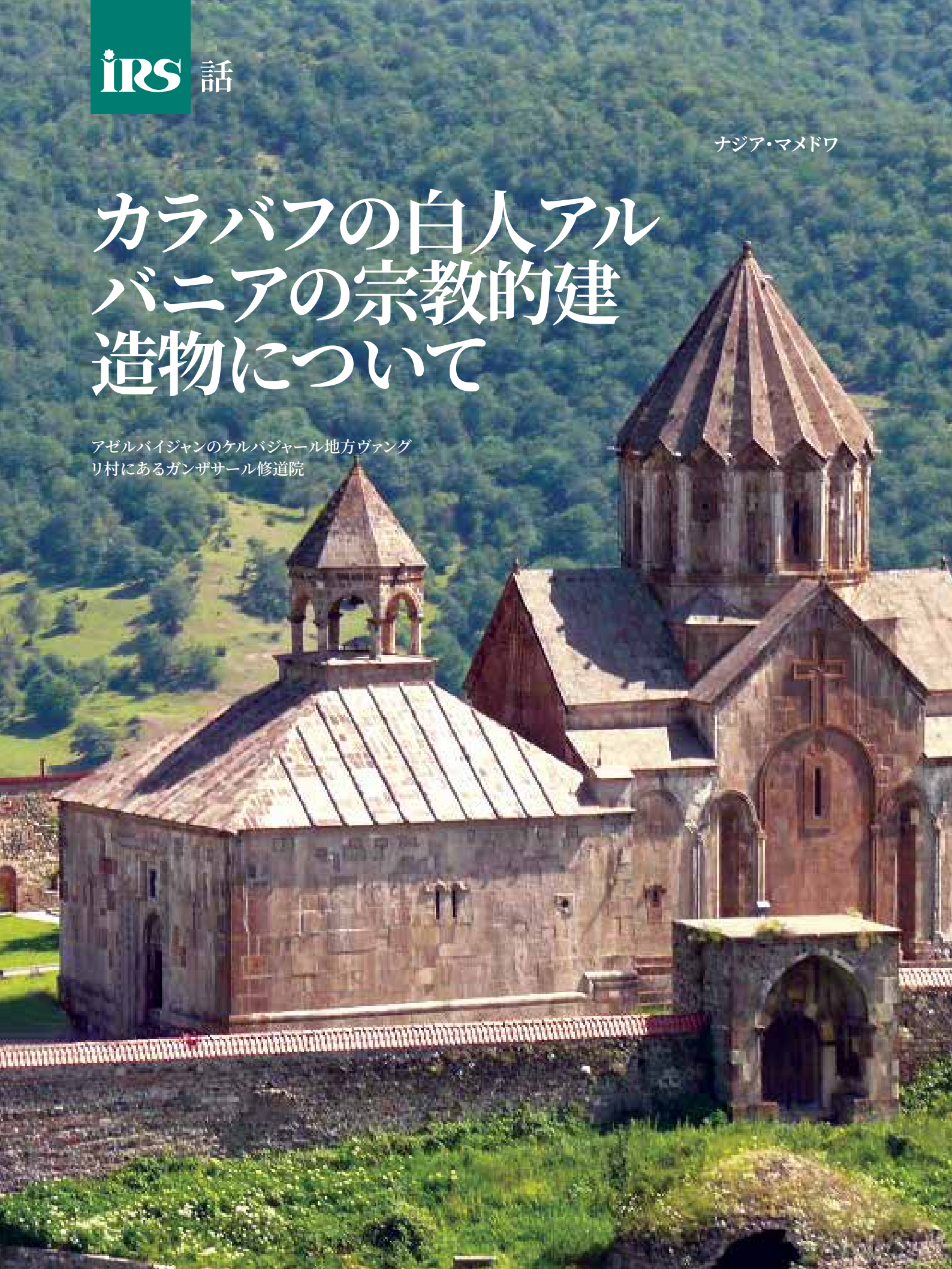


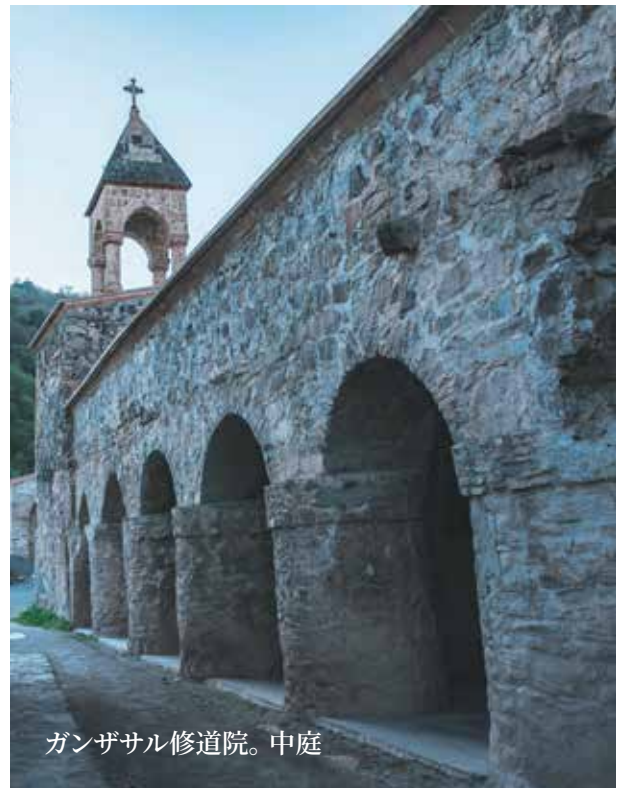
# カラバフの白人アル バニアの宗教的建 造物について

アゼルバイジャンのケルバジャール地方ヴァン  
グリ村にあるガンザサル修道院



アルメニアの歴史学では、政治的利益のための歴史の改ざんが横行しています。歴史の政治化と骨抜きに沿ったこの活動の方向性の一つは、白人アルバニアの建築記念碑の告白的特定の問題であります。アルメニアの科学者たちは何十年もの間、コーカサス地方のアルバニアの独特の建築はおそらくアルメニア人建築家の労働の成果であるという非科学的な仮説を証明しようと努めてきました。これは、以前に占領されていたアゼルバイジャンの土地を含む南コーカサスの広大な領土における歴史的文化遺産をアルメニア化する大規模かつ長期的なキャンペーンの不可欠な部分であります。コーカサス地方のアルバニアにおけるキリスト教建築の記念碑の改ざんは、記念碑への「修復」、碑文の偽造、シンボルの置き換え、特別な神聖な名称の適用、カチカールの十字架などを通じて(そして現在も)行われました。

占領地における物質文化の記念碑を改ざんするいかなる措置も、1954年のハーグ条



ガンザサル修道院。中庭



アゼルバイジャンのラチン地方にあるアゴグラン  
(チツェルナヴァン)修道院



約、武力紛争時における文化財の保護に関する条約、1970年文化財の不法輸出入及び所有権移転の禁止及び防止方法に関する条約などを含む国際法の規範に著しく矛盾することに留意すべきであります。

コーカサス地方のアルバニアは、現在のアゼルバイジャンの領土の大部分とアルメニアの領土の一部を占め、紀元前4世紀 - 西暦8世紀に存在しました。そして、建設、建築、芸術工芸を含む物質的および精神的文化の高度な発展によって際立っていました。この州はコーカサスにおけるキリスト教の普及において主導的な役割を果たしています。

アゼルバイジャンにおけるキリスト教の歴史は2世紀にまで遡ります。この地域の最初の説教者は、シリアの使徒サデウスの弟子である聖エリシャであると考えられています。4世紀初頭、アルバニア王ウルネールはキリスト教を国教として宣言しました。5世紀にアルバニア王ヴァカガン3世によって召集された歴史的なアグエン評議会は重要な役割を果たしました。21 の記事からなるアグエン教会

典は今日まで生き残っています。この記念碑には、キリスト教、教会組織、白人アルバニアの社会制度、階級間の関係、および法学の問題に関する貴重な情報が含まれています。特に、アグエン教会法典は、教会と聖職者の独立性を確立し、その段階的な強化を図る過程を反映しています。

アグエン教会法によれば、アルバニア教会の階層の頂点に立っていたのは大司教であるカトリコスでした。アルメニア人とは異なり、アルバニア人のカトリック教徒はアルバニア人の司教によって叙階されました。カトリコスは国王、王子、貴族、各教区の代表者が出席する評議会で選出されました。原則として、最高聖職者の権威ある代表者がカトリコスに選出されました。

アルバニア教会の教会法の源は、一般的なキリスト教の規範と規則の両方でした。エキュメニカル評議会の規範、使徒と教父の教化は義務的であり、すべてのキリスト教共同体に共通であると考えられていました。これらの規範は主に独断的で組織的な性質のもので

## アゼルバイジャンのテルテル地方、アグデレ村近くのアルバニア寺院



あり、聖職者の能力と信者の責任を決定しました。

4世紀以降、アルバニア教会は独立した教会になりました。独自の修道院、礼拝教団、教義を持っていました。アルバニア教会の自治権確立の根拠は、アルバニア国家の政治的独立、当局、聖職者、人民の政治的および教会法上の独立への願望でありました。

コーカサス地方のアルバニアにおけるキリスト教の教会と修道院の存在と活動は、中世初期の文献資料、特にアルバニア人の歴史家カランカトックのモーゼスとガンザクのキラコスの著作によって証明されています。これらの情報源には、アルバニアの王や王子によってさまざまな時期に建てられた教会や修道院に関する情報が含まれています。コーカサス地方のアルバニアでは、古代の聖域の基礎の上に教会や修道院を建てる習慣がありました。

キリスト教会自体は、キリスト教が国教としてIV世紀からV世紀にかけて確立されて以来建設され始めました。教会の建設は特

定の規範によって規制されており、その構成は入り口から祭壇まで西から東に向かって展開されます。最初の部屋は前庭で、その後訪問者はメインボリュームである身廊に入ります。そこから、教会のメインルーム、つまり典礼の主要部分が行われる玉座のある祭壇に行くことができます。身廊の東に位置する祭壇はイコノスタシスで覆われており、外側は半円形の拡張部である後陣に隣接しています。寺院の主要な容積の上にはドラム缶、つまり寺院が照らされる窓のある丸い塔があります。ドラムは円錐形または半球形のドームで終わります。玄関はポーチから直接入ることも、ポーチを通して入ることもできます。食堂はメインルームに併設されています。寺院の構成には鐘楼や鐘楼が含まれる場合があります。最初の教会は、長い身廊と後陣（通常、モザイク像が置かれる貝殻）で上部が終わる半円形の祭壇で構成されていました。

5世紀から8世紀にかけて、東方キリスト教の建築は、アーチ型天井のバシリカと、柱で支えられたドラムの上にドームが取り付け



ガンザサール修道院の装飾の断片



られたクロスドーム型の教会の出現と発展の段階を経ました。バシリカは平面図が長方形で、縦方向の列の列によっていくつかの部屋に分割されていました。

寺院と同様に、修道院複合施設の建設も広範囲にわたって行われました。文化および教育機関は修道院の周囲に集まっていました。修道院の複合施設や個々の建物は、周囲の風景に有機的に溶け込み、その不可分な構成要素となるように建てられました。修道院複合施設を中心構造は常に神殿として機能し、容積においては残りの建物を圧倒していました。地域の状況に応じて、食堂、経典室（書籍を保管および記録するための部屋）、鐘楼、住宅および付属の建物など、付随する建造物が建設されました。原則として、修道院の複合施設は強力な石の壁で囲まれ、小さな要塞に変わりました。

コーカサス地方のアルバニアでは、キリスト教の導入に伴い、バシリカやクロスドーム型の宗教建築物が出現し、時間の経過とともに計画と建設的な解決策が高いレベルの成熟

度に達しました。実際、アルバニアの教会は、主にカラバフとアゼルバイジャン北西部で知られる、5世紀から9世紀の初期のバシリカ構造に起源を持ちます。5世紀から6世紀にかけて、コーカサス地方のアルバニアの教会建築の平面図と容積空間構造に変化が見られ、平面図に深い馬蹄形の祭壇後陣を備えたバシリカ型のドーム型建造物の数が増加しました。その後、長さが短くなり、半円形のアプスに変わり、増加します。長方形の教会が優勢になる傾向があり、複数の身廊を持つバシリカの創設につながりました。クロスドーム型の建物の空間計画構造はアゼルバイジャンと隣接するジョージアで広く普及していましたが、解決策は場所によって異なりました。

コーカサス地方のアルバニアの建築記念碑における建築計画と建設技術には、アルメニアの建築記念碑とは大きな違いがあります。中世のアルメニアの宗教建築は、シリア、ビザンチウム、ジョージア、コーカサス地方のアルバニアといった近隣諸国から孤立して発展することはできませんでした。アルメニアの寺院建築では、シリアやビザンチウムの記念碑的建築とのつながりが顕著です。西ヨーロッパの科学がアルメニア建築をビザンチン建築の一分野として解釈しているのは偶然ではありません。さらに、著名な研究者の中には、アルメニア建築はビザンチン建築の模倣にすぎないと考える人もいます。一方、アルバニアの教会の特徴である4列および6列の3身廊のバシリカの形で計画されたデザインは、アルメニア建築の記念碑ではほとんど見られません。

カラバフの最高のキリスト教寺院群は、アルバニアの教会建築の素晴らしい例です。

ガンザサール複合体。1240年、カラバフのハチエン公国の統治者ハサン・ジャラルは、現在のケルバジャール地方の領土にガンザサール寺院を建設した。この記念碑には王子の名前の碑文があり、アルバニア人のために建てられた「アルバニアの玉座大聖堂」と特徴

づけられています。その時から、この修道院はアルバニア人のカトリック教徒の住居となり、彼らはガンザサル カトリック教徒とも呼ばれるようになりました。この修道院には 1261年にハサン ジャラル自身も埋葬され、その後彼の子孫も埋葬されました。

建築的には、ガンザサル複合施設はクロスドーム構成で、半円形の後陣がドーム下の空間に東から隣接しています。2階建ての角部屋は細長い形をしています。ドーム下の空間の尖ったアーチは、上部に装飾的なハーフロールで装飾されています。非常に興味深いのは、大聖堂の北、南、西のファサードの切妻のカルトのシンボルと装飾です。彫刻は首都付きの16面ドラムに配置されます。西側の窓の側には、寺院の模型を頭上に掲げるクティルがいます。西側の窓の上には昇天があり、南側の窓の上には子を連れた神の母の像があり、窓の側面には2人の女性の像があり、その上には鳥が飛んでいます。東の窓の上には2頭の雄牛の頭があり、北の窓の上には飾りだけがあり、窓の隣には翼を広げた2

羽の鳥があります。コーニス、窓枠、東壁の隙間、大きな十字架や門の彫刻も、慎重かつ芸術的に施されています。寺院の内部は8対の半柱に分かれており、吊りアーチになっています。

この素晴らしい記念碑の構成の完全性と建築形式の完璧さを強調する価値があります。多くの異性体要素は、ガンザサル複合体がアルメニアの教会ではなく、特にアルバニアの教会に属していることを示しています。

アマラス修道院。アルバニア王ヴァカガン 3世のもと、現在のホジャベンド地域の領土に建設されました。この複合施設は、教会、大聖堂、地下部分、住宅、別館で構成されています。教会の平面図は長方形で、建物の内部空間は3つの身廊に分かれており、ホールの床の上に上げられた祭壇の後陣で終わり、その頂には半ドームがあります。寺院のファサードには、純粋な羊でできた丁寧な作られた石のブロックが並んでいます。屋根の上には、寄棟ピラミッド型の頂部を備えた小さな6柱の



アルバニアの寺院。アゼルバイジャン、シェキ地方、キシユ村



## アゼルバイジャンのホジャバンド地方にあるアルバニア人アマラス修道院



鐘楼がそびえ立っています。出入り口は西側の壁に作られています。

アゴグラン大聖堂。ラチン地方にあるアゴグラン修道院複合体の3身廊の大聖堂は、6世紀に建てられました。大聖堂の記念碑的な建物は地元の灰色の玄武岩で作られており、周囲の風景と有機的に調和しています。尖ったヴォールトで覆われた中央の身廊は深い後陣で終わり、バレル・ヴォールトで覆われた側身廊は2つの内蔵礼拝堂で終わります。後陣は半ドームで覆われています。大聖堂の内部はフレスコ画で飾られていました。建物の上層には装飾的な石の彫刻が使用されており、身廊中央の高いところにある窓から明るい光が照らされています。外観は、寺院は中央の身廊が高く、明確でシンプルなデザインのファサードを備えた特徴的な聖堂です。計画上の特徴の1つは注目になります。それは、レキット寺院やクマ大聖堂と同じように、正面玄関の前に力強い柱が立っていることです。この異教の特徴は、アルメニアとグルジアのキリスト教寺院建築には見られず、アゼ

ルバイジャン領土内の多くのキリスト教会に保存されており、この記念碑が白人アルバニアの建築に属していることを示しています。

コタヴァンク。白人アルバニアの最古の建築記念碑は、アゼルバイジャンのケルバジャール地方にある修道院複合施設ハシャヴァンクまたはホタヴァンクです。ハシャヴァンク修道院はこの地域のキリスト教の初期に誕生し、近隣諸国の宗教建築とは大きく異なります。この複合施設には、容積空間的にも計画的にも非対称に設計された大聖堂教会が含まれています。鐘楼は独特の方法で建設されており、高い柱塔の上に建てられ、その下に半円形のアーチ型の通路があります。19世紀初頭まで、カラバフのアルバニア総主教庁はエチミアジンとは関係なく独立して存在していた。6世紀から13世紀まで、アルバニア教会の中心地はバルダ（パルタウ）にあり、それ以前は白人アルバニアの首都カバラ（現在のガバラ）にありました。13世紀以降1836年まで、アルバニアカトリコサテはガンザサール大聖堂にありました。1836年、ロシア皇帝ニコ

## . アゼルバイジャンのガク地方、レキット村のイエディキルセ修道院(7つの教会)



ライ1世はアルバニア教会の廃止とその全財産、アーカイブ、図書館、教区のアルメニア教会への譲渡に関する条項が含まれている「ロシアにおけるアルメニア・グレゴリオ教会の事務管理に関する規則」という法令を發布しました。廃止されたアルバニアのカトリック教区に代わるため、シュシャとシェマハにセンターを置く2つの教区が設立され、これらはエチミアジンの管轄下に移管された。それ以前の1815年に、アルバニアのカトリック総主教の地位は帝国令によって廃止されました。アルバニア自治教会の廃止は、アルバニア人の非民族化プロセスの推進力となりました。アルメニア教会によるアルバニアの歴史文化遺産の部分的な破壊、部分的な改ざん、流用のプロセスも急激に激化しています。この時以来、アルメニア使徒教会は、この地域における地政学的利益を実現するために「アルメニア問題」を利用したロシア帝国の政治的パートナーとして行動してきました。

カラバフにおけるアルバニア・カトリック教会の廃止は、南コーカサスの歴史において重要な出来事となりました。ロシア当局のこの行為の結果、アゼルバイジャンだけでなく地域全体の物質的および精神的文化の重要な層が実際に消去されました。✿

### 文献:

1. Мамедова Ф. «История албан» Моисея Каланкатуйского как источник по общественному строю раннесредневековой Кавказской Албании. Баку, «Элм», 1977
2. Ахундов Д.А. Архитектура древнего и раннесредневекового Азербайджана. Баку, Азгосиздат, 1986
3. Алиев И, Мамедзаде К. Албанские памятники Карабаха. Баку, Азгосиздат, 1997
4. Гусейнов Р. К истории армянизации и упразднения Албанской церкви Гандзасара // IRS - Наследие, № 2, 2017
5. Есаи Хасан Джалал. Краткая история Албании 1702-1722 гг. Баку, «Элм», 1989